



1年学年だより

発行日：平成 30 年 11 月 30 日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：磯部 修一 NO. 7

平成 31 年度生徒会役員選挙が行われました！

11 月 13 日（火）に平成 31 年度生徒会本部役員を選出する立会演説会が、高校と合同で行われました。候補者たちは「これまでの先輩方がつくり上げてきた生徒会活動を、全校生徒がより納得できるものにしていきたい」「生徒会活動とは全校生徒の活動であることを意識していきたい」「本部役員でなかった時に感じていたことを、本部活動にいかしていきたい」など、思いを熱く語りました。同日に投票、翌日開票した結果、平成 31 年度生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

生徒会長	2 年 3 組	■■■■	さん
役 員	2 年 2 組	■■■■	さん、2 年 2 組
	2 年 3 組	■■■■	さん、1 年 3 組
	1 年 4 組	■■■■	さん



平成 30 年度 現生徒会本部役員のみなさん



平成 31 年度 新生徒会本部役員のみなさん

30 年度の本部役員は現役員としてこのまま 3 月まで活動し、31 年度の新役員は 12 月から現役員とともに活動します。12 月から 3 月までは 10 人で活動します。

今年度、生徒会本部は「三学年の壁を無くそう ～皆で創る強固なつながり～」という生徒会目標を掲げて、活動しています。30 年度の残り 4 カ月、現役員と新役員とがともに活動しながら、その目標にさらに近づくことを目指していきます。中学校最高学年である 5 期生のみなさんが、これから控えているドッチビー大会や SLM（スマイルランチミーティング）、日々のあいさつなどを 3 月の最後まで後輩をリードし、来春、附属中学校と高校とをつなぐ存在として巣立っていくことを期待しています。

本部役員は附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。開校以来 7 年が経過している南高校附属中学校は、原型こそ固まりつつあるかもしれませんが、生活している生徒一人ひとりには常に変化しています。これまで築き上げてきた土台をもとにしながら、「いま」の附属中生が思い描く理想の学校像を言葉にして、全校生徒で明日の附属中学校をつくっていきましょう。さまざまな生徒会活動（委員会活動や係活動や学校行事など）は附属中生一人ひとりの成長のチャンスです。創意工夫のある生徒会活動を通して、附属中生が心身ともにたくましく成長していくことを願っています。

親子で学ぶコミュニケーション研修

5月に行われたコミュニケーション研修の第2弾が、11月8日(1,2組)と15日(3,4組)に行われました。講師はお馴染みのミッキー先生こと戸村 充男先生です。前回学習したことを復習しながら、「聴く力・質問の力・伝える力」を身につけて実践するための具体的なコミュニケーションの方法を学びました。

また、11月10日(土)には、生徒たちに大好評のこのコミュニケーション研修を、保護者の皆様にも体験していただきたく「親力アップ！コミュニケーション・セミナー」を実施いたしました。当日は100名近くの保護者の方にご参加いただきました。ありがとうございます。

「コミュニケーション」を話題として、また、お子さんと同じ内容の研修を受けて、ご家庭でも会話が弾んだことと思います。これからも、ご家庭と学校とが協力し、人間力の豊かな生徒を育てていきたいと思ひます。



1組: いつも話すことに集中しがちだけど、ミッキーが言っていたように、結局は聴くことが一番重要なことなのだと気づきました。一人ずつ行う発表会や普段の会話でも「聴く」を心がけると、相手は話しやすいと思ひます。聴くことによって話し方を学べたり、相手に喜んでもらえたりして、自分が話すときにも、それを活かせると思ひました。

2組: 「相づち」の大切さがわかった。具体的には、先生から質問が飛んできたとき、一瞬「ドキッ！」としたけれど、答えたときに、先生がキーワードをリピートして共感してくれたら安心できたし、話しやすかった。だから「相づち」はとても効果があるし、良いと思ひた。また、実践でお互いに会話のポイントを意識すると、会話も弾んで距離が縮まった気がした。

3組: 人が先入観や思いこみで判断してしまうことが多いことや、イメージできるまで質問をすることが難しいことに気づきました。先入観にとらわれずに質問をしたり、今回学んだコミュニケーションのコツを生かして、人と話をしたりすることを気をつけていきたいです。コミュニケーションのときは「同意・共感」や「キーワードのリピート」に注意していきます。

4組: 相手の話に相づちを打とうとすると、自然に口角が上がってくるし、相手の顔を見るようになるということに気づいた。そうすると話している方も話しやすい。また、ミッキーに教わった礼のしかたを実行していきたい。例えば授業の始め・終わりは先生と礼をするので、そこで美しい礼ができるようになりたい。意外に日常で礼をすることはたくさんあるので、普段からステキな礼ができればいいなと思ひた。



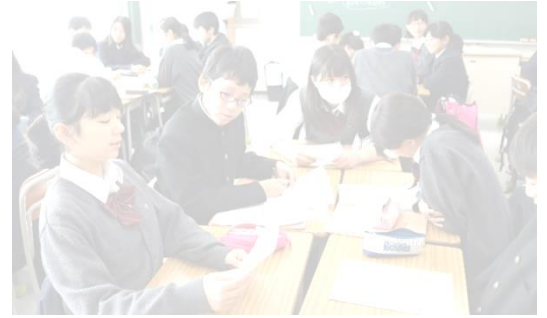
保護者の感想より

○子どもたちが学んだ内容を、親も学ばせていただけることに感謝いたします。さまざまなアプローチの仕方、ちょっとした心がけが今後の生活、人間関係にとっても有意義であると感じました。

○日常の自分自身の言葉のやりとりを思い出して、反省したり、ハッとしたり、笑ったり…原点に立ち返って見る必要があると思ひました。我が子と共有できる時間に感謝して、子どもを含め、家族とのコミュニケーションを楽しみたいと思ひました。

EGG 体験☆K-DEC 開発教育講座

11月10日(土)に K-DEC(かながわ開発教育センター)より講師の方をお招きして、開発教育講座を行いました。各教室で VTR を見ながらカカオ生産に携わるガーナの子どもたちの生活を学んだり、カカオを生産しているにもかかわらずチョコレートを食べたことのない子どもたちに「チョコレートをあげるべきか否か」をグループで討論したり、「カカオ農園の子どもたちに(私たちが)できること」について考えたりしました。先進国と開発国との格差という深刻な問題について、真摯な話し合いが行われました。



1 組: [] 人によって考え方が違って、まとめるのが難しかった。自分の班はチョコレートを「あげるべき」という答えを出した。チョコレートを食べることで自分達の努力がこんな風になっているのだとわかり、仕事への達成感がわくと考えたからだ。ガーナの人々の口には合わず、こんなもののために重労働をしているのかと思う人もいるのではないかという意見もあり、納得できた。ガーナの人たちに自分は何ができるかを考えたとき、まずはこの事実を重く受け止め、周りの人に広めていくことだと思った。

2 組: [] チョコレートが食べられなくなったら確かに僕たちは困るけれど、作っている人は、自分が口にすることも見ることすらないものを、生活のために遊ぶ暇もなく働いて作っているのだと思うと胸がいっぱいになります。今の段階では学校を建てたり、技術者の支援をすることは難しいかも知れないけれど、フェアトレードのチョコレートを買ったり、ユニセフに協力したり、家族とこれらの問題について話したりすることはできると思うので、今できることから活動していきたいと思いました。

3 組: [] 「チョコをあげるか、あげないか」で、私は始め「あげるべき」と考えた。しかし話し合っ、意見が変わった。チョコをあげるのは、先進国の人たちの勝手な同情、自己満足だと考えたからだ。でも、その後よく考えてみると、それもまた自己満足ではないかと思った。チョコを食べたいと思うのも、一度は食べたとしても、その後は食べられないと絶望するのも途上国の人だからだ。途上国の人たちの権利であるはずのものを、先進国の人たちが決めてしまっている時点で、上下関係が生じていると思う。格差をなくすために私たちができることはたくさんある。私もできることを少しずつやっていきたい。

4 組: [] ガーナでは、子どもたちが、学校に行く前に2キロも歩いて水をくみに行き、学校から帰ってきて働いて、夜、サッカーをしているのだと知って驚いた。それも靴下を丸めてボールを作り、畑でサッカーをしていた。それを見て、自分たちが自由に勉強や運動ができるのはとても幸せなのだと感じ、何かしたいという気持ちになった。フェアトレードや支援物資など何かできることはあると思うので、このことを家族や友人に話したり募金をしたりしてみんなが公平な立場になればいいと思った。

姫のひとりごと～学年レク編～



入学以来、何回か行っている学年レクですが、今回のテーマは「クラスミックスで行うことで親睦を深め、相手の良さに気づくこと」。前半は教室で、4クラスの人がミックスで「何でもバスケット」。後半は柔道場へ移動して全員で「マイム マイム」を踊りました。タイムテーブルや仕事分担に至るまで、学級委員が中心になって活動してくれましたが、みなさんも協力的で互いに相手の話をよく聞き、以前より速やかに行動していました。クラスの枠を越えて、笑顔が溢れる学年レク、これからも続けていきたいですね。